

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070702115		
法人名	医療法人 権頭クリニック		
事業所名	グループホーム 華里		
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡西区八枝3丁目12-10 (電話) 093-692-5558		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成21年10月20日	評価確定日	平成22年1月13日

【情報提供票より】(H21年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	10人, 非常勤 9人, 常勤換算 13.5人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨耐火 造り	
	3 階建ての	2 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,250 円	その他の経費(月額)	円
敷金	(有) 60,000 円		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 60,000 円 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1ヶ月	35,000 円	

(4) 利用者の概要 (9月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	2 名	要介護2		5 名	
要介護3	5 名	要介護4		4 名	
要介護5	2 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 83.1 歳	最低	62 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	権頭クリニック、正和中央病院、新日鐵八幡記念病院、かじわら歯科
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体であるクリニックの代表者が、患者や家族からのニーズによりグループホームを開設した。ホームはデイサービスや保育園が併設されており、日常的に連携を取り、利用者がデイサービスに通う知人や保育園の子どもたちと触れ合い、住み慣れた地域で穏やかに過ごしている。また、母体のクリニックとの医療連携にて利用者の健康管理や状態の変化にも対応しており、利用者や家族が安心して生活している様子が窺い知れた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善項目は数項目あるが、具体的な改善計画は立てられていない状況である。しかし、理念の共有と日々の取り組みに於いては、管理者がミーティングや日頃の業務の中で職員に伝え、職員同士も話し合いを行うなど、改善に向けた取り組みがみられる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価項目を職員がそれぞれ書き入れ、管理者が取りまとめているが、内容や自己評価、外部評価の意義を全職員が理解し更に話し合いをすることで、ホームの現状や工夫できる事、改善課題が明らかになりサービスの質の向上に繋がるのではないだろうか。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	利用者代表、家族代表(交代制)、民生委員、包括支援センター職員、近隣住民代表者、管理者等が出席し、ホームの行事の案内や活動報告、外部評価の結果報告等を行っている。ホームの状況や外部評価での改善項目を出席者で話し合い、多方面から情報収集することで運営推進会議を更に活かすことに期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族が面会に訪れた際に要望等表出しやすいよう職員が声をかけ対応している。要望があった場合は、解決・実現できるようミーティングにて話し合い結果を家族に伝えている。家族会を年に1回開きその中で家族同士の交流が出来ており、ホームに意見等出しやすい環境を作っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の住民の方の協力がありホームの餅つき大会や運営推進会議に参加してもらっている。また、近隣に市民センターがありそこでの行事(童謡歌う会やふれあい昼食会等)に利用者職員が参加している。近隣には、集合住宅が多い為、顔見知りになる機会が限られている状況であるが、管理者・職員が努力し地域との交流を深める努力をしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしくあるがままに」を理念として掲げ、詳細な項目がさらに3項目あり、住み慣れた環境で支援する等利用者の生活が継続できるようなわかりやすい理念を作っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットの目に付きやすい場所に理念を掲示し、いつでも理念を確認できる。管理者はミーティングにて理念を職員に説明し、職員も日頃の業務の中で話し合いを行い、利用者の思いを理解し援助するよう取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの行事の一つの餅つきに近隣の方々や子ども会を招き交流の機会を作っている。また、市民センター主催の童謡歌う会やふれあい昼食会に利用者・職員が参加し、地域交流に努めている。また、近隣の住民の方が常にホームのことを気にかけて下さり協力を得ている。散歩の途中で気軽に挨拶を交わす等地域との付き合いを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価項目を各ユニットの職員が書き入れ管理者が取りまとめている。前回の外部評価後、話し合いを行ったが、具体的に改善計画は立てられていない状況である。		管理者、職員の日頃のサービス提供等努力がなされていることは確認できたが、具体的な改善計画が立てられていないので、評価後具体的に改善計画を立て、実行、確認していくことで更にホームの質の向上に繋げていくことに期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族代表者、民生委員、近隣の住民、包括支援センター職員、法人関係者、管理者等が出席し、2ヶ月に1回開催している。会議では、ホームの状況や行事、活動の報告を行っており、ホーム便り等を配布し情報交換の場となっている。		運営推進会議が定期的開催され、外部評価の報告もなされているが、その後の話し合いや意見交換等を議題として取り上げられていないので、多方面からの意見や提案を頂くことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員がホームを訪れ、利用者や職員からの相談を聞き取ったり、助言を受けている。また、包括支援センターの職員はホームの餅つきに参加しホームとの交流や相談の機会となっている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修は資料を準備し定期的に開いているが、全職員の周知に至っていない状況である。パンフレットは準備しているものの、いつでも、誰でもが目にする場所には設置していない。		成年後見制度の研修を今後も継続させ、全職員の周知を図り、また、パンフレットは目に付きやすい場所に置き必要な人に提示、説明できるようにすることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が面会に訪れた際に管理者・職員が利用者の状態や暮らしぶり、職員の異動等を報告し、利用者の状態の変化があれば電話や口頭にて報告している。金銭管理に関しては、ホームが立替え利用者が必要に応じ使用した額を領収書と共に家族に報告している。		ホーム便りを季節ごとに作成しているが、更に内容を充実したものにしたいという管理者の高い志が感じられた。利用者の暮らしぶりや状態を個別に便りに書き入れ家族へ報告する等、内容の更なる充実に期待する。文書にすることで家族はさらに利用者の状態がわかりやすくなるのではないだろうか。
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に訪れた際に職員は要望を表出しやすいよう対応している。家族会を1年に1回開き家族同士の交流も深まっている為、意見や要望も職員に表出しやすい状況になっている。要望等があった場合は、ミーティングで話し合い解決し結果を家族に報告している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同法人が運営するグループホームがありそのホームとの異動があるが、日頃行き来しており顔見知りの関係を作っているため、利用者へのダメージは少ない。異動や離職の場合は、利用者の情報を記録しそれを活用すると共に管理者が引き継ぎを行っている。利用者への報告等は利用者の状態に合わせ不安や不穏が無い様配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法人全体で募集、採用しているが、年齢や性別等の条件は無い。採用後は研修期間を設け、職員の希望や特性を考慮して勤務場所を決めている。また、職員の特技を把握し、日頃のサービスで發揮できるよう工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修にて人権や身体拘束等に関して全職員が学ぶ機会を作っている。日頃の業務に於いても、言葉遣いや対応について管理者から職員に話をする等取り組んでいる。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1回法人の合同研修会があり、外部講師を招き職員が学ぶ機会を作っている。新任職員の研修も随時行い、理念や業務、その他について研修を受けられるシステムがある。外部研修の案内もしており、職員の希望により受けている。		
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の地域の管理者が集まり研修を行う計画があるが、他法人のグループホームとの職員同士の交流の機会は無い。		現在計画中の管理者同士の研修を実現していただき、職員同士も交流の機会をつくり、他法人のグループホームとの情報交換や学習の場を設ける取り組みに期待する。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設の通所サービスを利用しホームに入居するケースが多く、その場合は、ホームを見学してもらったり、ホームの利用者と一緒に過ごす時間を設けている。入居希望の待機者へは、空室利用でのショートステイを利用してもらい馴染めるよう工夫している。また、入居前の情報収集の為、自宅や入院先へ管理者等が訪問している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が人生の先輩であることを念頭に置き、生活の知恵や家事、調理の仕方等を職員が教わり人生を学ぶことがある。また、昔の歌や絵画等楽しみごとを通じ、昔の暮らしを職員が感じたり一緒に楽しさを味わっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族からの要望を聴き取り計画を立てる際に反映させている。また、本人から聴き取ることが困難な場合は、表情や行動から思いを把握している。		利用者それぞれの意向を把握し、介護記録に思いや言動を記録しているが、アセスメントにその内容の転記が少ない。心身の状態については記されているので、介護記録に残した本人の言葉や好きなこと、思いをアセスメントに反映していくと計画作成時にさらに本人の姿が見えてくるのではないだろうか。
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族からの聞き取りを元に、ミーティングにてケアを検討している。担当者会議には、本人、家族、担当職員、かかりつけ医の看護師が出席して計画を立てている。主治医からの意見も反映させている。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月に1回モニタリングを行っている。また、本人の状態に合わせて計画を見直している。モニタリングによって見直した計画は、管理者・計画作成者で確認し全職員が目を通し、全員で把握している。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人が希望することに対して個別に援助しており、利用者が自宅へ外泊する際の送迎等行っている。また、待機者へはショートステイの機会を作っている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により主治医は決められているが、ホームの母体のクリニックを希望する利用者が多い。併設のデイサービスの看護師との連携により利用者の健康状態を把握している。他科受診の支援もホームで行っており、結果は家族へ報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の指針を作り、本人・家族に説明しており、家族と同意書を交わしている。必要が生じた際にはその都度家族や管理者、職員等が話し合い対応している。また、看取りに関しての勉強会も行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者へ尊重の意を表しプライバシーに配慮した言葉使いに気をつけている。利用者の個人情報を使用する際の同意書を交わしている。計画書や個人の記録は事務所の机の上においてあり、職員が確認や記載をしやすいようにしている。		計画書は外部の人の目に触れないよう工夫し、利用者の個人情報が解るものに関しては、ファイルする等して、個人情報保護を再度工夫して頂くことが望まれる。
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの1日の流れはおおまかにあるが、本人のペースに合わせた対応を行い、個別援助にて個々の希望に沿って支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできる力を活用し、調理の下ごしらえ、盛り付けや配膳等それぞれが役割分担して行っている。また、後片付け時には職員と一緒に食器を拭いている方もおられる。職員は、食事の介助をすることが多いが、出来る限り利用者と一緒に食事を摂るように心がけている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回入浴日を設けているが、利用者の希望や状態によりいつでも入浴できるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人らしく過ごせるよう理念を実践し、個別の楽しみ事を本人に合わせ支援している。ドライブや花見等利用者の気晴らしとなっている。また、プランターや庭で花や野菜を栽培し出来る力を活かし収穫を楽しんでいる。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩やスーパーマーケットへの買物等利用者の希望やペースに合わせて出かけている。また、隣接の保育園にも立ち寄り、園児との交流を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室は施錠せず1階のデイサービスに自由に行けるように援助している。また、2階と3階にユニットが分かれているが、利用者がいつでも往来できるようにしている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	例年は年に2回避難訓練を行っている。昨年は地域の防災訓練に参加したため、事業所単独での避難訓練は1回となっている。地域の協力体制や消防署とも連携が取れている。災害時に必要な非常食等の備蓄は検討中である。		避難訓練を繰り返し行うことで、職員が冷静に行動し速やかな避難誘導に繋がり、利用者が安心して生活できるので、今後も引き続き取り組まれることに期待する。また、非常食等を準備し災害時に備える取り組みが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が献立をチェックし、カロリー、バランスに配慮している。食事摂取量は記録し、水分摂取は必要に応じ記録し個々に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには季節感のある飾りがあり、適度な音量で音楽が流れており、心地よい時間を過ごせる配慮がなされているが、所々に埃が目についた。前回指摘のあった食堂のテーブルは補修されている。		衛生美化に継続して取り組めるよう、担当を決める等して職員組織内でのしきみを作ろうと話合っているとのことである。利用者にとってより居心地のよい空間となるよう、職員間で更に創意工夫がなされることに期待する。
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には、入居前から愛用しているタンスや椅子、テレビ等が置かれ、本人らしい部屋で心地よく過ごせるよう工夫している。		